

## RPA(AI)時代の人材

### 1. AI時代への警鐘

NHKは、「マネー・ワールド～資本主義の未来～」という番組で

1回目:「お金が消える!？」(10/6)

2回目:「仕事なくなる!？」(10/7)

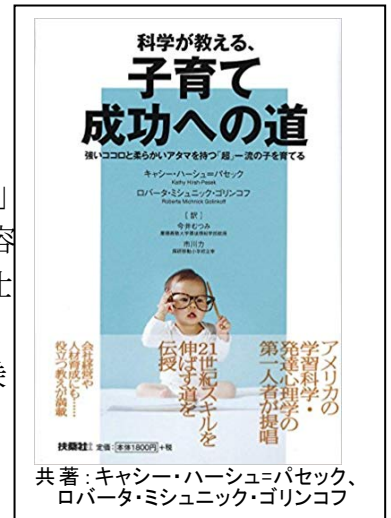
3回目:「巨大格差その果てに!？」(10/23)

を放映して、来年4月2日に「“トランプ経済”は世界を変えるのか!？」を放映する予定になっています。まさに、これからの時代を憂える内容になっており、特に2回目の「仕事なくなる!？」でAIが大部分の仕事をとって変わると憂えているのです。

確かに、私の経験でも17年目になる三菱自動車のエアトレックに乗っているのですが、故障診断はコンピュータが行い、その指示に従って部品交換するという事がありました。結構、古いタイプのクルマですが既に電子制御されていたのです。また、家電分野でもパナソニックの全自動洗濯乾燥機があるのですが、具合が悪くなるとエラー番号を表示して、その番号に従って対応するだけで素人でも回復させる事ができます。

このように、自動車も家電も「故障」に関して、その診断はコンピュータで行う時代であり、コンピュータ診断は各分野で採用されているのです。その流れの一つに銀行の窓口業務から人員削減のニュースに表れています。単純な仕事はAIの進化で多くの仕事がAIに置き換わっていく時代になっているのです。

このAI時代の表面化で若い人たちの「子育て」が大変難しくなっているのです。この新しい時代の「子育て」を右上掲の本が説いているのです。アメリカで40年以上、言葉の発達や認知の発達研究をしているロバータ・ミシュニック・ゴリンコフとキャシー・ハーシュ=パセックの共著である『『Becoming Brilliant—What Science Tells Us About Raising Successful Children』の日本語訳で「科学が教える子育て成功への道」という本です。



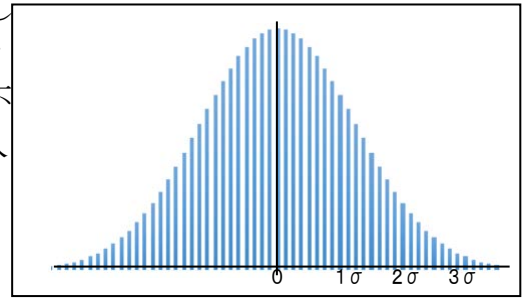
### 2. 身近な進化(RPA)

AIはビッグ・データと共に、どんどん進化して行く事は疑いの余地はないと思います。例えば、チェスや囲碁・将棋もコンピュータと対戦してトップ・プロが勝てなくなっているのです。また、乳がんの診断もAIで初期診断して医師の見落としを防ぐ時代であります。最先端ではAIが進化すると共に身近な所ではRPA(Robotic Process Automation)始まっています。一種の業務改善システムなのですが、コンピュータのデータからエクセルに自動変換したり、エクセルのデータをコンピュータのデータとして取り込んだり、また、紙ベースの物を読み取ったり、音声変換でデータ化する時代になっています。これらは「変換」という作業ですが、省力化になっているのです。

少し視点は違いますが、私の個人生活では妻に先立たれていますから家事の自動化で非常に助かっています。まず、なんと言っても予約タイマーで炊飯や洗濯が完了するし、調理もメニューを指示するだけ、洗濯も仕上げを選ぶだけで予定の時刻に完了しているのです。まだ、掃除ロボットを使っていませんが、これも非常に手に入りやすい価格帯になっているので普及期になると思います。私だけでなく、主婦の方も炊事・洗濯から解放されるので、会社に出て仕事を安心して出来るのです。本当に重宝な時代と実感しています。

### 3. どんな人が必要か？

AIが大多数の仕事で人にとって代わると叫ばれているし、実際にRPAで自動化が進んで家事労働が軽減されており、仕事がなくなると実感して「子育て」という点で多いに不安になるのが人情です。右掲は正規分布というグラフで人間の現象にも当てはまります。まん中をゼロにして左右対象であり、標準偏差という物があり0～1σの範囲に34%、1～2σ間に13%、2～3σ間に3%、3σ以上は0.3%と極少数なのです。反対側も同じです。



今までの格差問題は1σ以上の16%に入れば、頭がよいと言うことで、よい就職ができており、長い人生を約束されていましたが、これからの時代は、RPAが進出して銀行などもATMだけにして窓口要員を減らす方向であり、さらには、大銀行は手間のかかる個人を相手にしない方向なのです。なぜなら、自社のATMを減らして他社のATMへ誘導してお金を引き出すだけでも手数料をとる時代になり「キャッシュレス化」になるのです。

従って、最低でも2σ以上の存在でなければならないが、この層の仕事は現場という物がRPA化されているので、事務的な正確さが必要ではなく、どちらかと言うと対人折衝つまり営業という能力が必要になるのです。しかも、ビッグ・データとAIが進化するので、何かをしようしたらAIが分析して「手順」や「条件」を指示するようになるのです。エリート層ですらAIのフィルターを通してRPAに従う時代になるので、超エリートはさらに困難な新しいコンテンツを生み出す能力が必要になるのです。

### 4. 「一途」になることが大切

第1項で「科学が教える子育て成功への道」の著書をご紹介しますが、これからの「子育て」のキーワードとして右掲の「6つのC」を上げており、協調性と会話力がベース能力として高くなければならないと指摘しています。その上で「内容」を考え出す事であり、物事を批判的に見て創造的革新を産み出し、それを自信を持って進める事が大切だとしているのです。故船井先生が「人間力」と表現していたものであり、先生のニュアンスにはカリスマ性も含まれていたのです。

「6つのC」
Collaboration: 協調性
Communication: 会話力
Content: 内容
Critical thinking: 批判的思考
Creative innovation: 創造的変革
Confidence: 自信

もう10数年前になりますが「オール電化」推進プロジェクトのコンサルをしていた時に、関西電力の優秀な人たちが「電化試算で優位なお客様」を与えられても結果が出ない人が多かったのです。「オール電化の方が得になる」という提案が出来て、しかも、実際に料理教室で体験させても「売れない」という人が多かったのです。前項の正規分布のように年間100セット販売する人は極僅かだったのです。同じ条件なので、この「差」って重要です。

人には得手不得手の両面があり、必ず、苦手なタイプが存在するのです。私は、講演で若手社員から「どうしたら売れるか必勝法を教えろ」という質問が出た際に、間髪入れずに「バカと呼ばれるまでやる事」と答えたのです。つまり、「なり切る」事が大切なのです。徹底して実践した姿から出る「オーラ」は人を惹きつけるパワーがあります。その言葉はスーッと肚に入る「魔力」があるのです。この「オーラ」や「魔力」が無ければ、「6つのC」も役立たないと思います。ホンマに「一途」(≡〇〇バカ)になる能力が大切と実感します。

【AMIニュースのバックログは <http://wwgw.web-ami.com/siryo.html> にあります！】